

平成 25 年度 第1回伊豆市地域公共交通会議 会議録

日時：平成 25 年 11 月 20 日（木） 14 時～15 時 20 分

場所：伊豆市役所本庁別館 2 階 大会議室

出席者：16 名

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市長	菊地 豊	会長
総務部長	鈴木 伸二	副会長
健康福祉部長	鈴木 正	委員
観光経済部長	杉山 健太郎	委員
教育委員会事務局長	森下 政紀	委員
国土交通省中部運輸局静岡運輸支局首席運輸企画専門官	古橋 由忠（代理）	委員
静岡県文化・観光部交流企画局交通政策課長	小林 直人（代理）	委員
社団法人静岡県バス協会 専務理事	平野 洋一	委員
伊豆箱根バス株式会社 常務取締役	岩崎 勝一（代理）	委員
株式会社新東海バス 支配人	鈴木 裕之	委員
静岡県タクシー協会 修善寺支部長	寺山 冗二	委員
東海自動車労働組合 書記長	青木 守（代理）	委員
静岡県沼津土木事務所 技監兼修善寺支所長	金子 隆一	委員
大仁警察署 交通課長	比留 正樹	委員
伊豆市 P T A 連絡協議会長	保母 不二郎	委員
伊豆市老人クラブ連合会長	川口 一男	委員
地域づくり課長	相磯 浩二	事務局
地域づくり課 主幹	森嶋 哲男	事務局
地域づくり課 主査	山田 和彦	事務局
地域づくり課 副主任	下村 亮介	事務局

資料：①次第、②席次表、③委員名簿、④資料 1 伊豆市地域公共交通会議の役割について
 ⑤資料 2 会議資料、⑥資料 3 路線図・運行ダイヤ、
 ⑦資料 4 消費税増税による運賃改定一覧表、
 ⑧資料 5 公共交通に関する住民アンケート結果

1. 開会

2. 挨拶（市長）

皆様、こんにちは。

伊豆市は、大変大きな、ある意味広域的な問題を抱えている。修善寺駅を起点にして、隣の沼津市の戸田まで、バス代で1,000円、伊東まで1,100円。しかし、市内の土肥恋人岬までは1,570円、つまり土肥の小峰のおばあちゃんが日赤まで行こうとすると往復3,140円かかる。東京なら500円程度で済む距離が、こちらでは1,500円近くかかる。ほぼ3倍近い金額である。

また、少子高齢化で高齢者が増えているとともに、子どもが極めて減っている。今年の成人者は299人で、とうとう300人を切ってしまった。昨年の出生数も145人で、ものすごい勢いで子どもの数が減っている。

これは端的に言って、子どもの養育費が少ない三島や長泉に引っ越しているということ。こういう例がある。土肥で高校生を2人、三島の高校まで通わせるとすると、土肥から修善寺までが約1,300円、そこから三島まで500円、往復3,600円の定期を買って通うことになる。ところが、仮にお父さんの職場が大仁の東芝テックだとして、家族で三島に引っ越せば、アパート代は半分会社が出してくれるし、お父さんの通勤代は会社が出してくれる。伊豆市から高校生を2人通わせるより、家族で三島に引っ越してしまったほうが安い。そういうことが起こっているのです。伊豆市では伊豆半島北部の他の市町に比べて、圧倒的に子どもの数が減ってしまっている。また、子育て世代は30代であり、お父さんは60代、「お父さんが元気な間は」と言って、30代の人たちが三島・函南・長泉に出て行ってしまって、他の市町に比べて、圧倒的に子どもが減ってしまっているというのが伊豆市の現状。

それから、合併前に4つの町がそれぞれ、県や国の制度の中で、町として事業を行っている頃は、それほど難しいことというのはなかった。今、33,000人という規模の市の中で、伊豆市は全く“例外”になってしまっている。東名、新東名、新幹線沿いの市町は財政力指数が1に近い数字になっている。静岡県というのは、川根本町と伊豆市から南の地域が例外。国も県もそのような地域を前提として制度を作っていないので、伊豆市はどうしても標準値に入っていない。問題はそこをどうするか。それをクリア出来ない限りは、増えるお年寄りは今後も増える一方、減っていく子どもは減る一方ということになってしまう。

ぜひ新たな交通システムというものあり方を考えていきたいと思っているが、修善寺駅は昔、天城湯ヶ島まで伸ばすつもりで作った駅なので、非常に中途半端なターミナルとなっている。これを将来どのような形にもっていくのか、公共交通機関というものを伊豆市の場合にはどのように考えていくのか、これは極めて難しい問題、しかし、それを解決しないと、いくら修善寺駅を改修しても、伊豆縦貫道が完成しても全体的な住みやすさにはつながっていかない。今日はそういった大きな問題に対する議論ではなく、主に来年度の実路線系統等についての議論になるが、来年伊豆市は10周年、地方交付税が完全に無くなっ

てしまう平成32年からどうやって生き残って行くかをこれから真剣に考えていかなければならない。その中でも公共交通の在り方というものを来年、再来年くらいでしっかり考えていきたいと思っている。その際には、皆様にもご相談させていただくことになろうかと思うので、今後ともご協力をお願いしたい。

3. 委嘱状交付

事務局

＜会議の成立報告・議事録の公開＞

本日の交通会議には委員18名のうち、代理の方の出席を含め、16名の方にご出席いただいている。「伊豆市地域公共交通会議設置要綱」第4条第5項、会議の開催要件が満たされている。また、「伊豆市地域公共交通会議設置要綱」第5条第4項“交通会議は原則として公開とする。”に基づき、会議は「公開」とし、議事録を後日公開させていただく。

4. 伊豆市地域公共交通会議の役割について

資料1に基づき、事務局より説明

5. 伊豆市の交通の現状について

資料2に基づき、事務局より説明

6. 協議事項 ○ 来年度の路線バス系統について

○ 「狩野ドーム～長野線」の路線延長について

○ 消費税増税に伴う運賃改定について

○ 修善寺温泉場交通規制について

協議事項について、資料2～4に基づき、事務局より説明

＜ 質問・意見等 ＞

委員

＜ 来年度の路線バス系統について ＞

資料のとおり『承認』

＜ 「狩野ドーム～長野線」の路線延長について ＞

狩野ドーム前の信号で、国道から狩野ドームへ左折する際に、狩野ドーム側の車道の停止線が国道に近いため、停止線を下げた方が良い。

停止線を下げてもらえれば、より安全にバスが走行出来る。

事務局 ご指摘のとおり、大型バスだと左折しづらくなると思われるため、今後の検討課題とさせていただきます。

委員 バスの停留所を学校の近くに整備するということが、ある時間に大人数の小学生がバス停に待機することになるかと思うが、待機場所の安全面の確保をお願いしたい。

事務局 県土木事務所の協力のもと、国道の両側にバス停車帯の整備工事も併せて進めており、市の方でも待機場所の整備を進めている。教育委員会としても、路線延長後の生徒の安全な下校に向けた準備を進めている。また、小学生については、長時間、待機場所でバスを待つわけではなく、ある程度の時間までは小学校の校庭等で待機するような形になると思われる。
なお、路線の延長については、整備工事が終了した後に実施する予定。
(間に合えば年度当初、遅くとも2学期が始まる時には実施予定)

『承認』

<消費税増税に伴う運賃改定について>

資料のとおり『承認』

<修善寺温泉場交通規制について>

委員 交通規制については、バス等への特例なして実施ということか。それほど本数は無いかと思われるが、当初は混乱することが予想される。ルートによっては、往路と復路の時間に差が出てしまうことになるかと思う。

事務局 バスについても、規制対象。ルートについては東海バスと協議を進めているところであり、今、具体的なルートをお示しすることが出来ない。

会長 これについては、一方通行だけが既に決まっているため、後は東海バスとの協議の中で修善寺駅行のルートを決定し、後日、連絡をいただくということになるかと思う。

『承認』

7. 公共交通に関するアンケート調査結果の概要について

資料2に基づき、事務局より説明

《 質問 ・ 意見 等 》

会長 自分が利用している柿木行きのバスもそうだが、中学生・高校生がほとんど通学にバスを利用していないのではないかと思う。

- 委員 資料2の3Pに、伊豆市の補助事業の内容について記載があるが、実際に利用状況がわかるような資料をいただきたい。
- 会長 ご指摘のとおりである。次回の会議で資料を配布させていただく。
- 委員 これからの分析ということになると思うが、資料5の8Pで「200円」と回答した方が、「どの地域」の「どの年代」の方なのかという分析が必要になってくると思われる。
- 会長 中学生の通学以外のバス移動(塾やクラブ活動)についても、政策的になんとかしたいと考えている。具体的には、高齢者へのいきいきパスのようなもので、中学生用の特別なパスのようなものが出来ないかと思っている。
また、高校生については、非常に親の送り迎えが多いので、定期券や回数券の購入費用に対し、半額の補助が出来ないかと考えている。
- 委員 資料9Pの市内の循環バスについては、具体的にどのような循環バスを望む声があったのか、またその年代については？
- 事務局 年代については分析が出来ていないが、公共施設や病院、商業施設などをまわるようなバスを希望されている方が多かった。
- 委員 資料6Pのバス停や車両に対する意見に対し、運行事業者の考え等をお伺いしたい。
- 委員 バス停の待合スペース等の件については、地域の方に市の補助金を使って整備していただいているところもあるし、道路状況によってはバス停のみを設置しているところも多い。洞の奥に行くほど道路が狭くなるということもあるため、整備が難しいところもある。
- 委員 中学生が全く乗らない路線というのは、やはり運行時間帯に問題があるのだと思う。バス事業者とPTAで、すり合わせをする機会をいただければ是非とも協力させていただきたいと考えている。
また、高校生についても、バスの通学補助を是非とも検討してもらいたい。便の悪い地域だと月の定期代が莫大な金額となり、伊豆市に住むということはそういった手枷足枷がある。聞くところによると、修善寺駅に子どもを送迎する車は300台近いそうである。この子たちをバスに乗せることが出来れば、バスの利用者増にもつながる。また、市役所の職員が率先してバスを利用してもらいたい。

会 長 観光の視点からは、市内のバス路線はどうか。観光客からの意見等はあるか。

委 員 観光客については、予めインターネット等でバスの時刻等を調べてきているため、昔に比べると不便だという声は少なくなった。

 ただ、運賃について、都会に比べると高いという意見や、ＩＣカードが利用出来ないのかという意見がよく聞かれる。

会 長 先ほど、ご意見があった通り、“バス路線を維持したければ、まず自分たちが乗るべきだ”というご意見についてはごもっともであると思う。

 また、自分自身が、公共交通機関を利用して、その強さ、強靱性を考えることもある。行政としても、なるべく高齢者や子どもがバスに乗るような制度をもう少し改善したいと考えているが、またいろいろところで公共交通システムを維持できるようにご配慮いただければと思う。

【 閉 会 】